Ｂ－１　授業デザインの視点

「学びのサイクル」を確立するためには、「活用型授業」が必須である。「活用型授業」を実践するためには、「活用力」を全教員が共通理解しておく必要がある。「活用力」を（１）のように定義し、既習の知識・技能や問題解決の方法を課題解決や生活の場面に活用するとした。

また、知識・技能を活用する場面には、言語活動＝話し合い活動が必要であり、（２）の展開例のような生徒の自分の考えを活かした展開を工夫している。

（１）辰口中学校が考える「活用力」とは？・・・・

知識・技能を
問題解決の方法を

→ 思考力・判断力・表現力を駆使して活用すること

課題の解決に
生活体験の場面に

（２）本校が目指す活用型授業

授業は、学習者の意識の流れと授業者の授業展開力が一致してこそ充実し、生徒にはやりがいが出てくる。学習課題を生徒が理解して、全員の力で解決していくプロセスに「活用」の場面がある。

話し合い活動は、各教科共通の「学習スタイル」[1]であり、これが定着すると「活用型授業」で多様な思考力・判断力・表現力が身につくものと考えている。

一斉リーディングの場面

ペアワークの場面

グループでの考えをまとめる場面

解き方を発表している場面

ICT 機器を利用する場面

自分の考えを発表する場面

[1] 生徒の学び方をいう。話し合い活動は教科共通の学習スタイルである。例えば、理科の班活動は、社会科でも活用可能である。

活用型授業の典型例を以下に示す。

授業者のスキル

①課題の提示（中心発問）

提示の仕方の工夫

○前時の復習（質問で）
○身近なもの　○具体的なもの
○絵、写真で

②考える時間の保障

補助的な説明や個に応じた支援

③話し合いの場の設定

形態や目的

○ペア　　→自分の考えをはっきりさせる
○グループ→統一意見にする
○全体　　→発言をつなげる
　　関連した考えに挙手

思考力・判断力・表現力を駆使する場面＝言語活動がともなう

④まとめる

構造的な板書

学習者のスキル

①課題をつかむ

考えたくなる課題

○知らないことなのでおもしろそう
○どうなっているのだろう
○どこかで聞いたことがあるような

②自分の考えを持つ

既習を活用する
生活体験を活用する

活用

③話し合い活動

説明の仕方

○みんなに向かって話す
○結論を先に、根拠を述べる
○短く区切って話す
○つなぎ言葉を使って
　つまり、例えば、まとめると　等

聴き方　肯定的に自分の考えと比べる

説明方法

○黒板（指示棒）○ホワイトボード

学習スタイル活用

④まとめる

自分の考えより深まった知識・理解を実感

⑤学習のふり返り

「自己評価カード」

活用

自己評価カード